

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部（田村亨支部長）は、2016年9月17日、「文化遺産を活用した“イベントとまちづくり”」と題する都市地域セミナーを小樽市で開催しました。旧岡崎家能舞台を生かす会の三ツ江匡弘会長と小樽医科大学ビジネススクールの内田純一准教授からの話題提供を受けて、セミナーの参加者と意見交換。その一部を紹介します。



三ツ江匡弘 氏 旧岡崎家能舞台を生かす会・会長

クローズアップ①

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部 平成28年度第1回都市地域セミナー 文化遺産を活用した“イベントとまちづくり”

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部：鈴木 栄基

旧岡崎家能舞台を生かす会の活動とまちづくり

小樽の旧岡崎家能舞台は、舞台裏に楽屋が無く、それにともない舞台の上手にある切戸口が開けられない等、能楽堂としての問題があります。また、愛好者の高齢化など、旧岡崎家能舞台や能楽を取り巻く課題も多い。生かす会では、能舞台は能楽以外では機能を活かしきれないと捉え、能舞台の再建とともに様々な能楽普及活動を行っています。

多面的な能楽イベントの参加者は、年齢が4歳から90歳、エリアも近隣から世界各国まで、年齢・性別・居住地を問わない形態になっています。活動の過程で、2012年、52年ぶりに能舞台の切戸口を開け、空堀の上部を利用した客席や、仮設楽屋を設置しました。また、一昨年、1935年に製作され、1984年に市が寄贈を受けた組立能舞台が発見され、その再生にも取り組んでいます。こうした生かす会の活動は、能舞台がある山の手のエリアと観光拠点の運河沿いとを結び、観光客の滞在時間を長くすることなどを目指すことも含むと、観光、教育、文化、建設という4つの分野にまたがる「まちづくり」活動といえます。

活動の特色は、通年型であり、ボランティアではなく経済的な自立を果たすこと、建物用途を変更せずそのまま利用して、利益を上げていくこととしていま

す。一連の活動の意義としては、第一に歴史的建造物の再生とマネジメントであり、歴史的な建物は見せるだけでなく活用することが大事です。第二に質の高い都市環境の実現です。社会見学で歴史的な建物を訪ねても、それ以降、建築自体を見ようとする認識が生まれにくい。建物に対する興味を増し、建物を見る審美眼を育てる活動が良質な都市環境の実現に必要であり、それを目指した活動となっています。

地域の戦略的位置づけと小樽・札幌ワンセット観光



内田 純一 氏
小樽医科大学ビジネススクール

知名度のない地域の戦略的位置づけの例として、ベルギーは隣接するアムステルダム*1と対比する戦略を、中南米のカリブ海に浮かぶ島国は、中南米のハワイとして差別化する観光に取り組んでいます。

また、観光のイメージづくりのため、新しい芸術に伝統的なものをミックスする例では、韓流ブームを背景にしたナンタ*2があります。北海道で言えば、アイヌ文化にはない人形劇を新たに創作し、アイヌに伝わる舞踊や地域芸能も取り入れる試みなどです。

*1 アムステルダム
オランダの首都。

*2 ナンタ
韓国の伝統的なリズムを奏でるサムルノリを素材に、キッチンでの出来事をコミカルにドラマ化した韓国の非言語公演。

一方、北欧のオーレスン海峡*³の都市圏は、コペンハーゲン*⁴と芸術文化の魅力があるマルメ*⁵とを橋でつなぎ、オーレスンリンクとして売り込んでいます。

札幌と小樽とはワンセット観光であり、小樽の文化資源、遺産は、札幌の売りになっているものとは明らかに違います。外国人からは、日本的なものが求められます。札幌だけでは近代的なものばかりですが、小樽と組み合わせると、地域ならではの施設、ユニークベニュー*⁶が出てきます。

観光まちづくりは、地域の満足が目的ですが、外からの評価に頼らざるを得ないところがあります。祭りの多くが観光客の来訪によって維持され、進化している現実を考えると、MICE*⁷のように国際的な取り組みでも、地域の伝統文化をミックスすることが大事です。

伝統文化と地域の理解

会場 地域の方は、伝統文化にはあまり興味がないのが一般的ですが、観光客を呼び込むためには、伝統文化を売りにしなければなりません。地域の人とのギャップを埋めるヒントはありますか。

内田 地域の伝統文化なのに、地域で知られていないことはよくあり、そのためにも地域のイベントが必要です。能に興味の無かった人も、雅楽など、地域内のほかの娯楽、文化と結び付けていく努力をしていくとギャップが解消されると思います。

三ツ江 時間と資本との制約の中で、諦めずに取り組んでいくことが必要だと思います。

期待したい新しい技術

小松 (学会副支部長) 日本古来の能は、謡 (うたい) 一つをとっても文章がないとわからないし、文章にされても現代語とギャップがあります。東京の歌舞伎座に行くと、登場人物の関係、舞台設定の解説などの音声ガイドがあります。観客と芸術とのギャップはIT技術などで埋められるのではないのでしょうか。

三ツ江 国立能楽堂では2カ国語ガイドがあり、それを利用して狂言を見た外国人が大笑いしています。しかし、私たちは、初心者には出来るだけ解説しません。演目の内容を知って、能を理解したつもりになる人が多いのですが、能は、身体を使った芸能であ

ることを感じてほしい。今後の展開の中には、メディア、ウェアラブル装置を活用することなども考えています。

ボランティアと経済的自立

田村 (学会支部長) 土木の専門家がまちづくりを扱うときの公式は、個性、地域シンボル、地域の市民が良くしたいと思う能動性です。一番難しいのは、地域の人たちに地域を良くしたいと思わせることです。能を通して、小樽を訪ねる人のためにも地域を良くしたいという想いが、一つの運動になればいいと思います。経済的な自立は大事ですが、それと市民を巻き込むことをどうバランスさせたいですか。

三ツ江 私たちも基本はボランティアですが、経験上、ボランティア活動だけでは消滅してしまいます。経済的自立は重要で、両方を見て、最終的には経済的な自立に移行したい。その中で市民がまちをつくっていく気持ちが出来ていけばいいと考えています。650年続いている能は、日本人の普遍的な価値観の中で育まれたもので、地域に限らない点も大事にしたい。

文化の継承と改変

会場 伝統文化をイベントにすると、受け継がれてきた価値に演出が加えられ、変化してしまいます。それがいいのかどうか。芸能は時とともに変わりますが、そうした変化をどうとらえたいですか。

内田 中国伝統演劇の一つである川劇*⁸には、変面という面の模様を早変わりさせる技があります。その早変わりの技だけを見世物にする行為は確かに文化の改変になってしまいますが、伝統芸能に人々の関心を向ける切っ掛けをつくる効果はあります。経営学的には、伝統文化の理解にはある程度の入門編を用意していくことが必要だと思いますが、芸術を実践している人には、継承のための文化の改変が果たしてどうか、という異論があるかも知れません。

小松 (学会副支部長) 日本の伝統芸能である能は、小樽では運河と山の手とをつなぐ意味があることなど、本日は参加者にとって実り多い時間を過ごせたことに、お礼申し上げます。

*3 オーレスン海峡
デンマークとスウェーデンの間の海峡。

*4 コペンハーゲン
デンマークの首都。

*5 マルメ
スウェーデン南部の港湾都市。

*6 ユニークベニュー

会議やイベントに利用し、特別感や地域特性を演出できる施設。

*7 MICE (meeting, incentive tour, convention/conference, exhibition/event)

ミス。多くの集客が見込まれ、経済効果の大きいビジネス関連イベント。

*8 川劇

中国四川省に伝わる古典劇の一つ。